

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用又は他の研究機関への提供を希望されない場合は、下記の「本研究に関する当院の連絡先」にご連絡ください。
ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	高齢者の NSAIDs*1 定期内服による感染症徴候の不顕性化の可能性、および細菌性肺炎の重症度の相関 *1 非ステロイド性抗炎症薬
意義・目的	NSAIDs の定期使用が細菌性肺炎患者の所見に与える影響を明らかにし、受診遅れや誤診のリスクを評価するとともに、NSAIDs による予後の変化の有無を評価することを目的とします。研究の結果、臨床現場における診断精度の向上と患者の予後改善が期待できると考えます。
研究期間	当院病院長許可日（利用開始日）2024 年 12 月 5 日 ～ 2026 年 1 月 31 日
対象患者	2018 年 1 月 1 日から 2023 年 12 月 31 日に当院救急外来を受診し、入院時に「細菌性肺炎」「誤嚥性肺炎」「急性肺炎」「肺炎」のいずれかの症病名がつき、入院された患者さん。
研究内容	①「利用する試料・情報の項目」の情報を抽出し、NSAIDs 常用患者群と非常用患者群とで比較検討します。 ②NSAIDs 常用患者群と非常用患者群を比較し、細菌性肺炎感染患者の重症度を比較します。また、NSAIDs によってマスクされる指標、マスクされない指標について統計処理により検討します。
利用する試料・情報の項目	識別番号、同一患者識別符号、年齢、性別、身長、体重、BMI、喫煙歴、糖尿病の既往、高血圧の既往、心血管系疾患の既往、脳血管疾患の既往、腎疾患の既往、肝疾患の既往、精神疾患の既往、認知症の既往、悪性腫瘍の既往、内分泌疾患の既往、呼吸器疾患の既往、整形疾患の既往、血液疾患の既往、血液培養、喀痰培養、 NSAIDs の常用、抗凝固薬・抗血小板薬・降圧薬・血糖降下薬・抗脂質異常症薬・向精神病薬・抗アレルギー薬・抗てんかん薬の常用、血液腫瘍科の介入、受診時 GCS、体温、収縮期血圧、拡張期血圧、脈拍、呼吸数、SpO2、初回酸素投与量、COVID-19 抗原検査、インフルエンザ抗原検査、ALB、Cre、BUN、CRP、白血球数、好中球数、AST、ALT、T-Bil、血小板数、入院日の「胸部 CT」または「胸腹部 CT」、在院日数、退院先、入院時の肺炎の診断、酸素投与期間終了までの日数、呼吸数<20 回/分になるまでの日数、抗菌薬の投与等
試料・情報の他機関への提供有無	☐ あり（ ☐ 国内 ☐ 海外 ） 提供方法： ☒ なし
研究組織	研究代表機関：機関名および研究責任者名 島根県立中央病院 地域総合医育成科 小田川 誠治 共同研究機関：機関名および研究責任者名 該当なし 試料・情報提供を行う機関：機関名および施設長名 該当なし

本研究に関する当院 の連絡先	研究責任者： 島根県立中央病院 地域総合医育成科 小田川 誠治 電話：0853-22-5111（代表） 事務担当： 島根県立中央病院 臨床研究・治験管理室 電話：0853-30-6590（直通）
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。 URL：https://www.spch.izumo.shimane.jp/privacy
結果の公表	2025 年頃に投稿論文で公表予定です。
備考	